

平成 24 年 5 月 14 日

平成 24 年度「新入社員 意識調査」

足利銀行（頭取 藤澤 智）のシンクタンクである「あしぎん総合研究所」（社長 伊沢 正吉）は、「平成 24 年度新入社員意識調査」を行いましたので、その結果を別紙のとおり発表いたします。今回のポイントは下記のとおりです。

記

<ポイント>

- ◇ 東日本大震災後の混乱の中で就職活動を行い、過去最も厳しい就職戦線を勝ち抜いた平成 24 年度の新入社員。新卒者の約 8 割が 1 社のみの内定だったようだ。
- ◇ 「働きたい業種・業界で会社を選び、自己の人間性の成長や社会貢献のために働き、友人の約束よりも仕事を優先する…」という、しっかりしている新入社員像は昨年同様だった。
- ◇ 一方で、給料の多さや自分の夢の実現といった「私」目線も、ちょっぴり気になるようだ。
- ◇ また、独立・転職意識に変化がみられた。「定年まで働きたい」という安定志向の回答が引き続き多いものの、転職・独立志向も高まってきている。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 69.2%と圧倒的に多く、次いで「会社・上司の雰囲気」がよい」36.1%、「通勤に便利など立地条件」32.1%となった。

2. 働く目的

「収入を得ること」が 70.6%と多く、「自己の人間性の成長」が 52.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」が 39.3%となった。

3. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が男性 62.2%、女性 34.8%と最も多かったが、昨年度調査と比較すると減少している。

4. 仕事と友人の約束が重なる

「なるべく仕事を優先」「いつでも仕事を優先」合計で 82.1%となり、仕事優先派が多い。

5. 新卒者の就職活動

内定企業数は、「高校」「高専・短大・専門学校」では「1 社（当社のみ）」が圧倒的に多く、「大学・大学院」では「1 社（当社のみ）」が 63.1%、「2 社」25.1%となり厳しい就職戦線を反映した。

以上

本件に関するお問い合わせ先：(株)あしぎん総合研究所 小林 TEL028-623-6601

平成 24 年度 「新入社員 意識調査」

<ポイント>

- ◇ 東日本大震災後の混乱の中で就職活動を行い、過去最も厳しい就職戦線を勝ち抜いた平成 24 年度の新入社員。新卒者の約 8 割が 1 社のみの内定だったようだ。
- ◇ 「働きたい業種・業界で会社を選び、自己の人間性の成長や社会貢献のために働き、友人の約束よりも仕事を優先する…」という、しっかりしている新入社員像は昨年同様だった。
- ◇ 一方で、給料の多さや自分の夢の実現といった「私」目線も、ちょっぴり気になるようだ。
- ◇ また、独立・転職意識に変化がみられた。「定年まで働きたい」という安定志向の回答が引き続き多いものの、転職・独立志向も高まってきている。

1. 会社を選んだ基準

「自分が働きたい業界・業種」が 69.2%と圧倒的に多く、次いで「会社・上司の雰囲気がい」36.1%、「通勤に便利など立地条件」32.1%となった。

2. 働く目的

「収入を得ること」が 70.6%と多く、「自己の人間性の成長」が 52.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」が 39.3%となった。

3. 勤務・転職等

「定年まで働きたい」が男性 62.2%、女性 34.8%と最も多かったが、昨年度調査と比較すると減少している。

4. 仕事と友人の約束が重なる

「なるべく仕事を優先」「いつでも仕事を優先」合計で 82.1%となり、仕事優先派が多い。

5. 新卒者の就職活動

内定企業数は、「高校」「高専・短大・専門学校」では「1 社（当社のみ）」が圧倒的に多く、「大学・大学院」では「1 社（当社のみ）」が 63.1%、「2 社」25.1%となり、厳しい就職戦線を反映した。

<調査方法>

- (1) 調査期間 : 平成 24 年 3 月 26 日～4 月 18 日
- (2) 調査対象 : あしぎん新入社員セミナー受講生、新入社員向け出張研修受講生
(セミナー開催回数 栃木県 10 回、群馬県 1 回、埼玉県 1 回、出張研修 3 回)
- (3) 有効回答数 : 597 名 (回答率 98.0%)

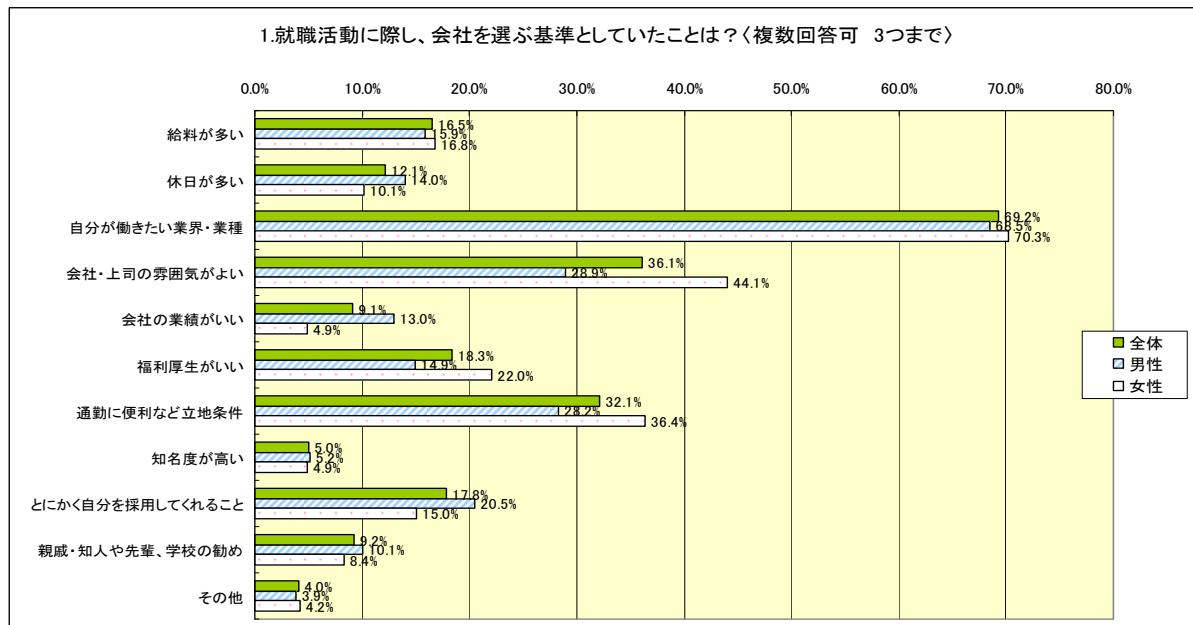
内 訳 : 男性 310 名、女性 287 名

大学・大学院	44.7%	高専・短大・専門学校	17.8%
高校	21.5%	中途採用、その他	16.1%

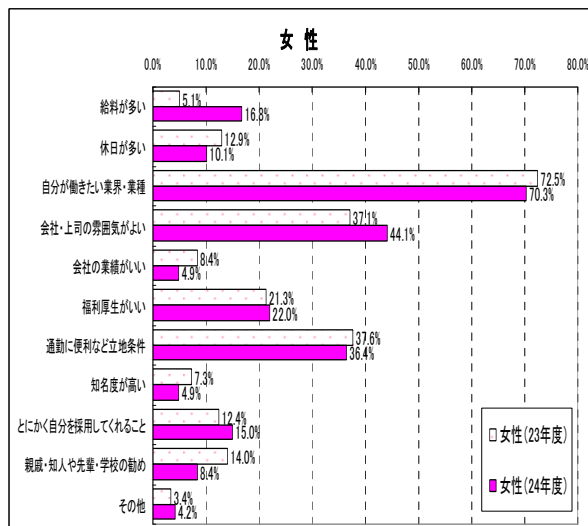
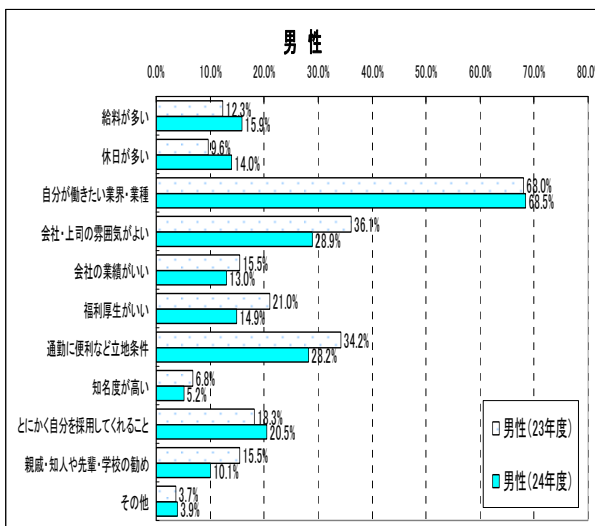
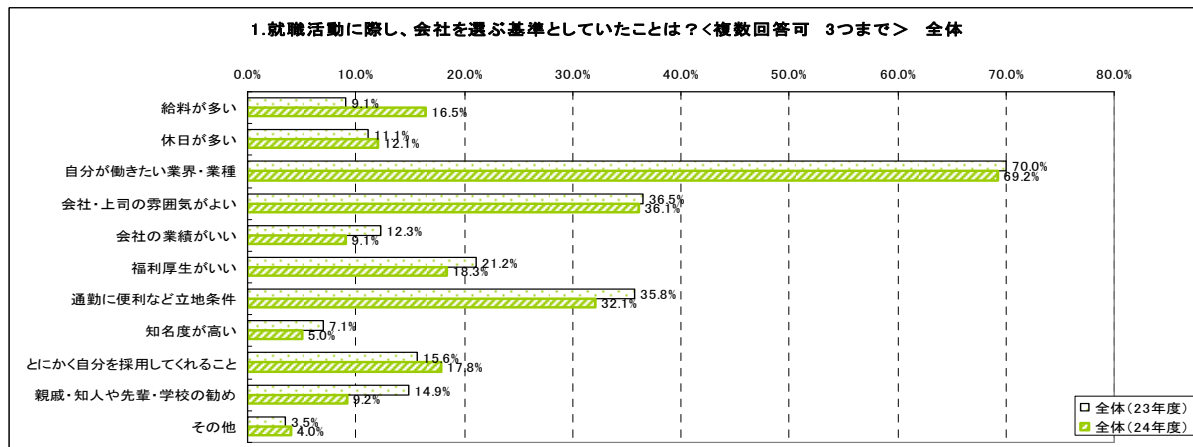
1. 就職活動に際し、会社を選ぶ基準としていたことは？

「自分が働きたい業界・業種」が69.2%と圧倒的に多く、次いで「会社・上司の雰囲気がよい」36.1%、「通勤に便利など立地条件」32.1%となった。会社選定の大前提としては、「興味ある業界・業種かどうか」がポイントのようだ。

男女別では、「会社・上司の雰囲気がよい」「通勤に便利など立地条件」で女性の回答が多く、「会社の業績がいい」「とにかく自分を採用してくれること」で男性の回答が多い。

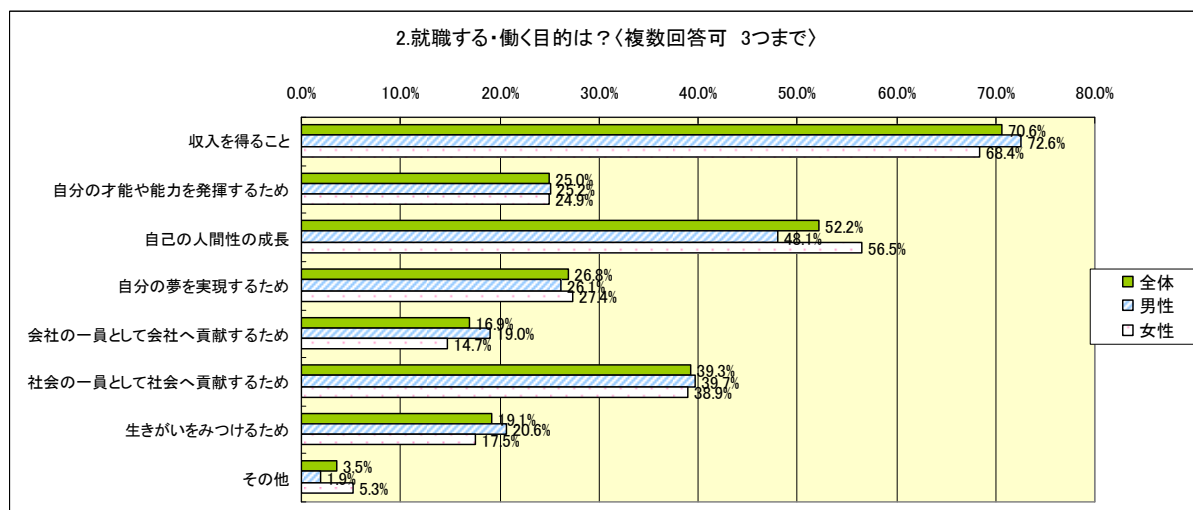


昨年度調査との比較では「給料が多い」「とにかく自分を採用してくれること」等が増加。

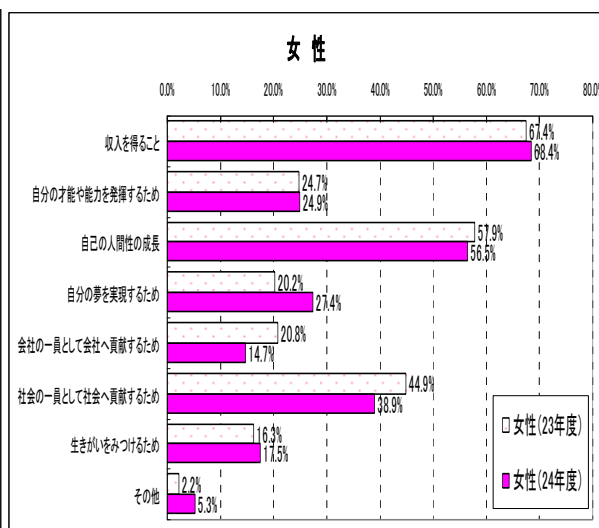
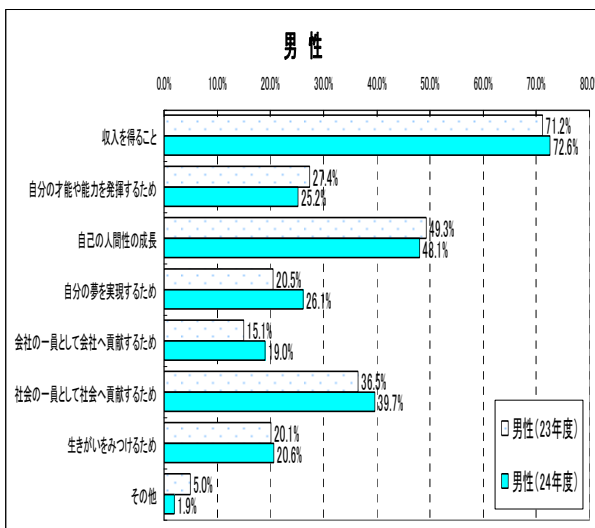
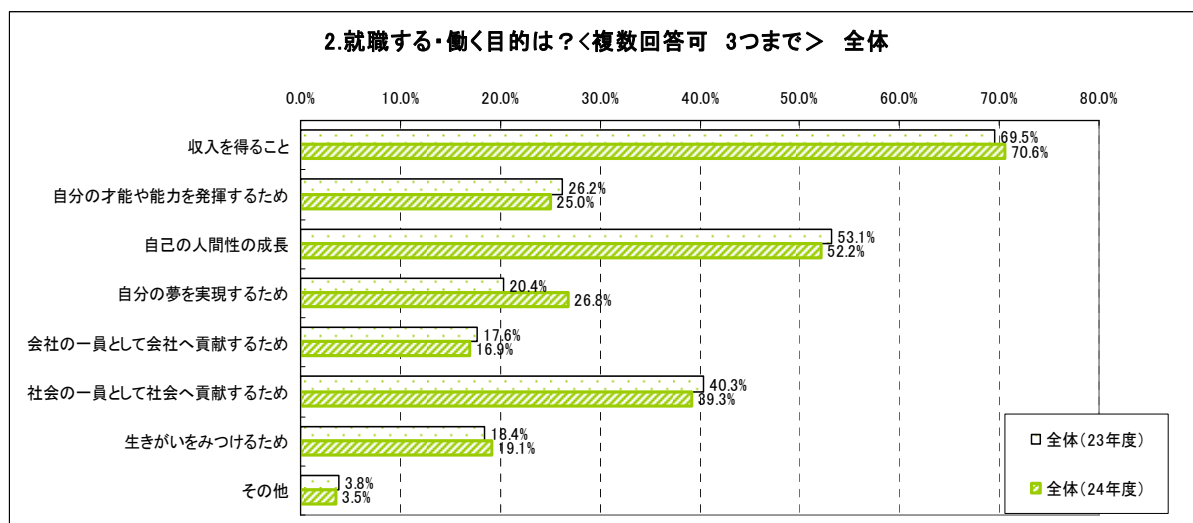


2. 就職する・働く目的は？

当然ながら、「収入を得ること」が 70.6%と最も多い。次いで多かったのは「自己の人間性の成長」52.2%、「社会の一員として社会へ貢献するため」39.3%となった。



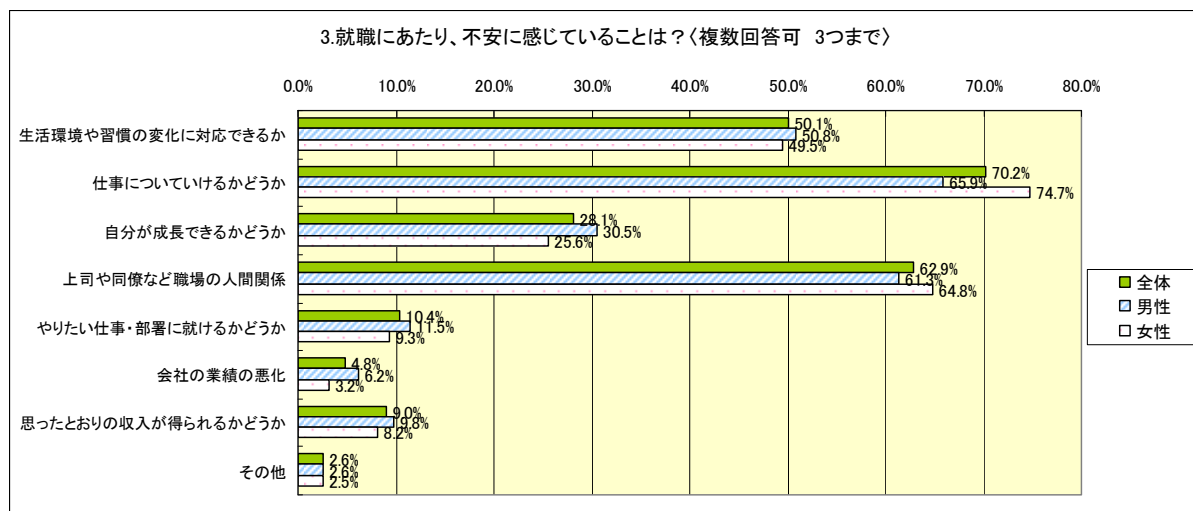
昨年度調査と比較すると「自分の夢を実現するため」が大幅に増加している。また、男性では、「社会の一員として社会へ貢献するため」「会社の一員として会社へ貢献するため」も増加している。



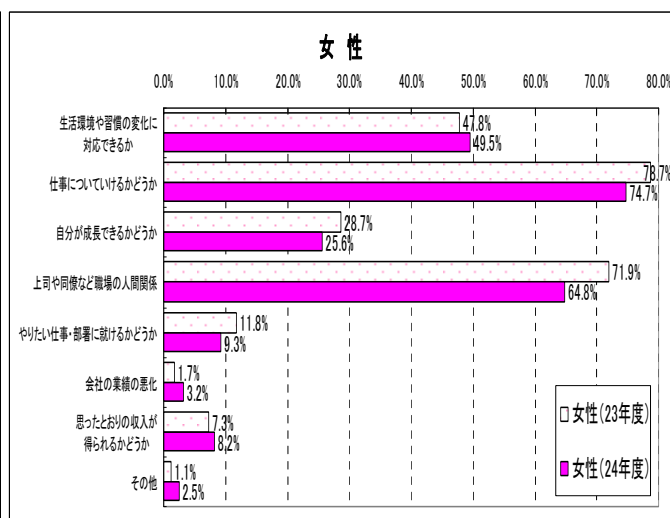
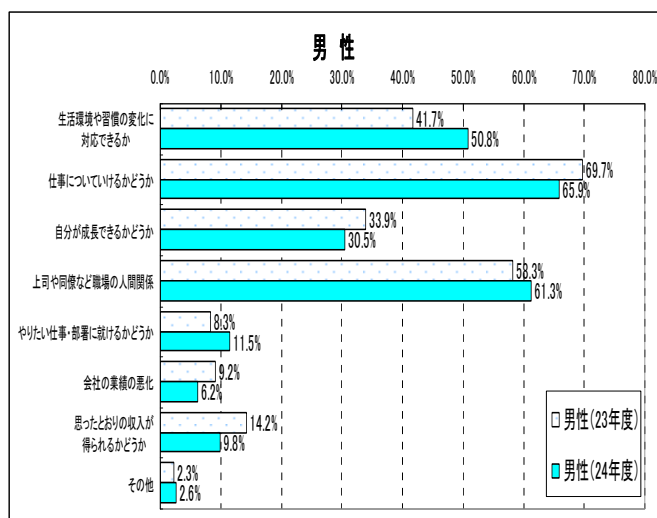
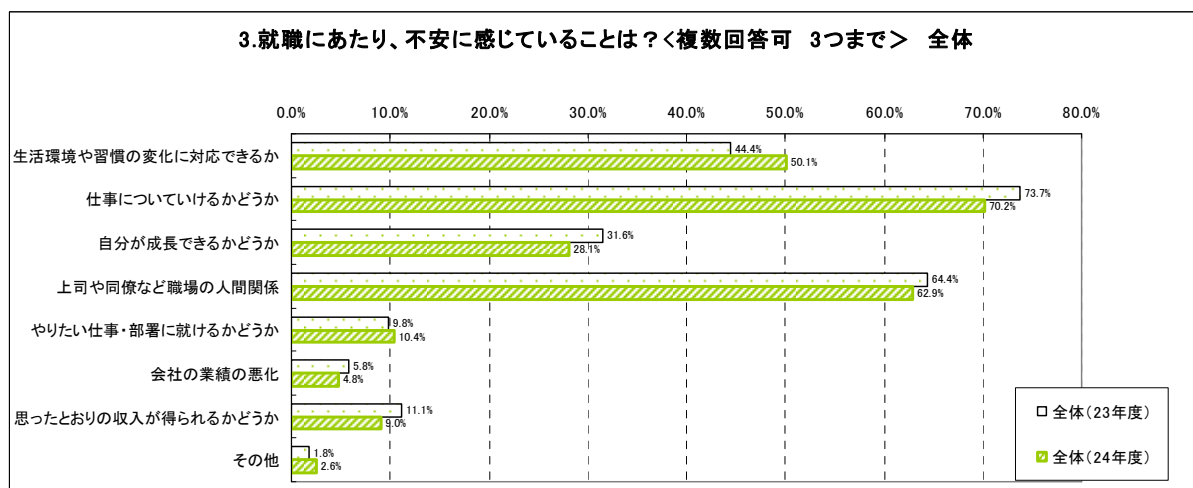
3. 就職にあたり、不安に感じていることは？

「仕事についていけるかどうか」が70.2%と最も多い。次いで多かったのは「上司や同僚など職場の人間関係」が62.9%、「生活環境や習慣の変化に対応できるか」50.1%となった。

男女別で差がみられたのは、「仕事についていけるかどうか」「上司や同僚など職場の人間関係」が女性で多く、「自分が成長できるか」「会社の業績の悪化」が男性で多い。



昨年度調査と比較すると「生活環境や習慣の変化に対応できるか」の増加が目立った。

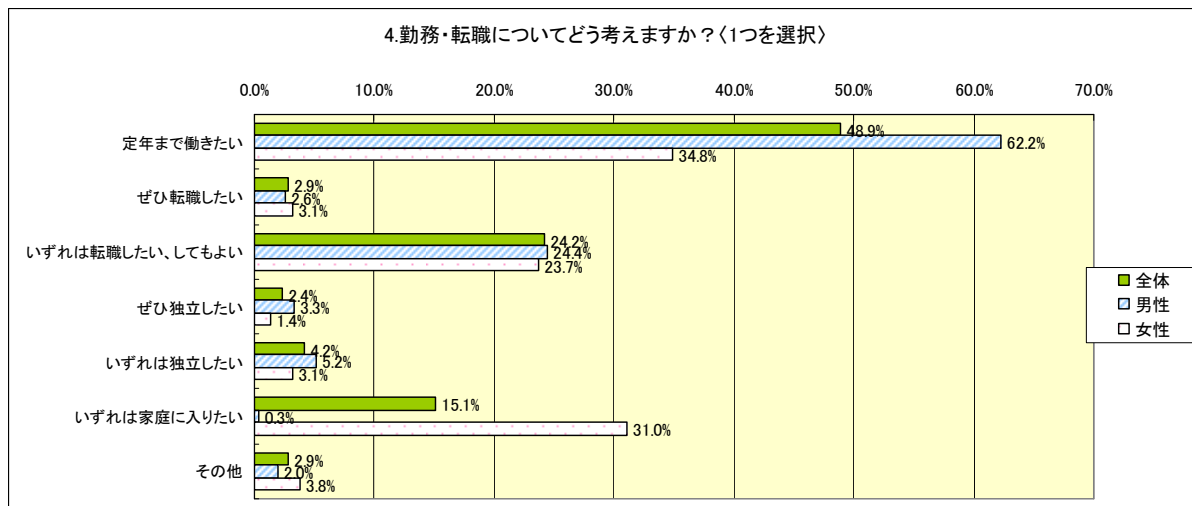


4. 勤務・転職等についてどう考えるか？

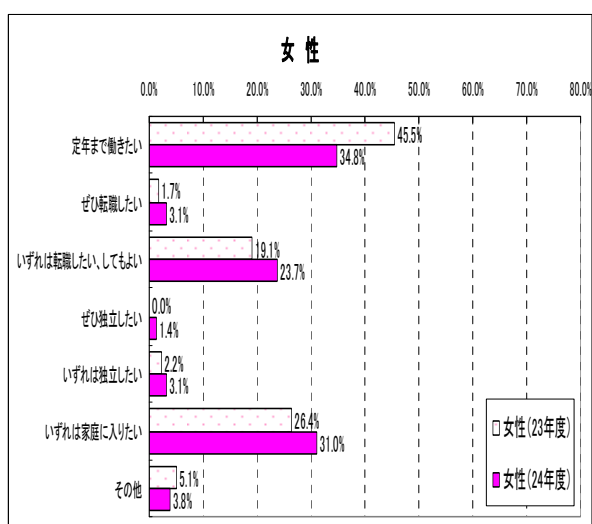
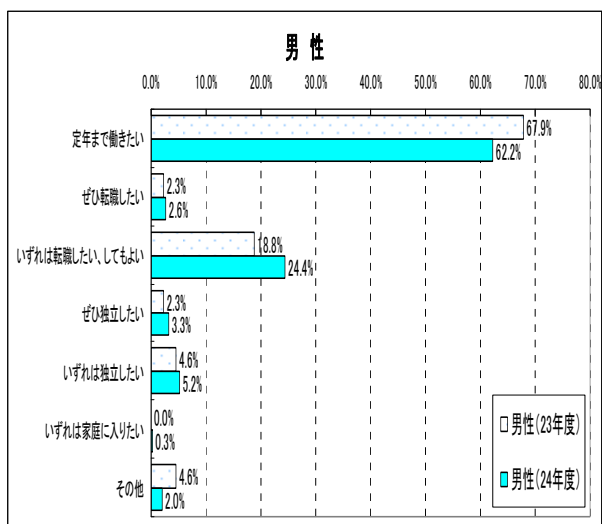
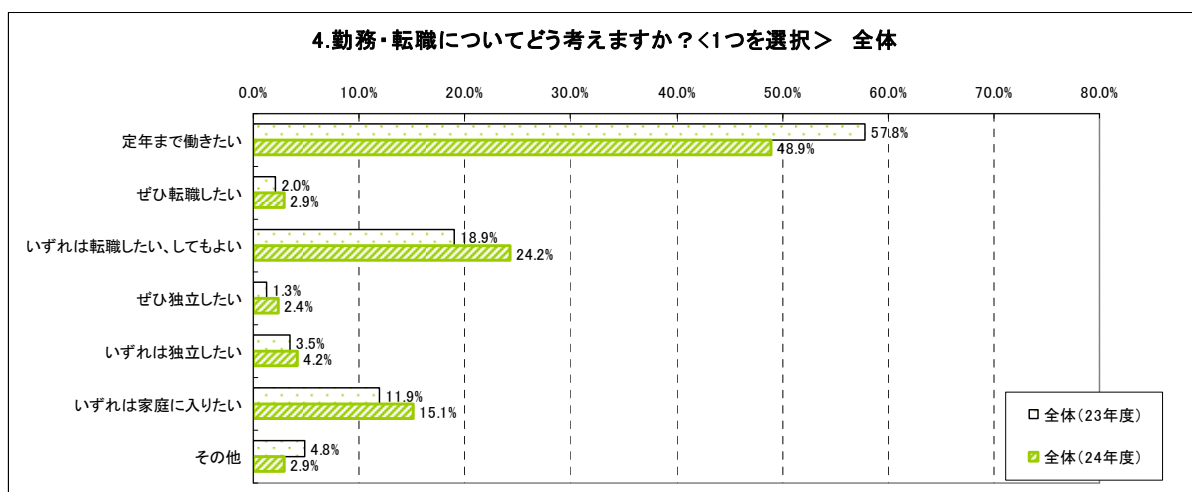
この項目では、男女の差が大きく表れた。

男性は、「定年まで働きたい」が 62.2%と最も多く、次いで「いずれは転職したい、してもよい」24.4%、「いずれは独立したい」5.2%となった。

女性は、「定年まで働きたい」が 34.8%と最も多かったが、次いで「いずれは家庭に入りたい」が 31.0%、「いずれは転職したい、してもよい」23.7%となった。

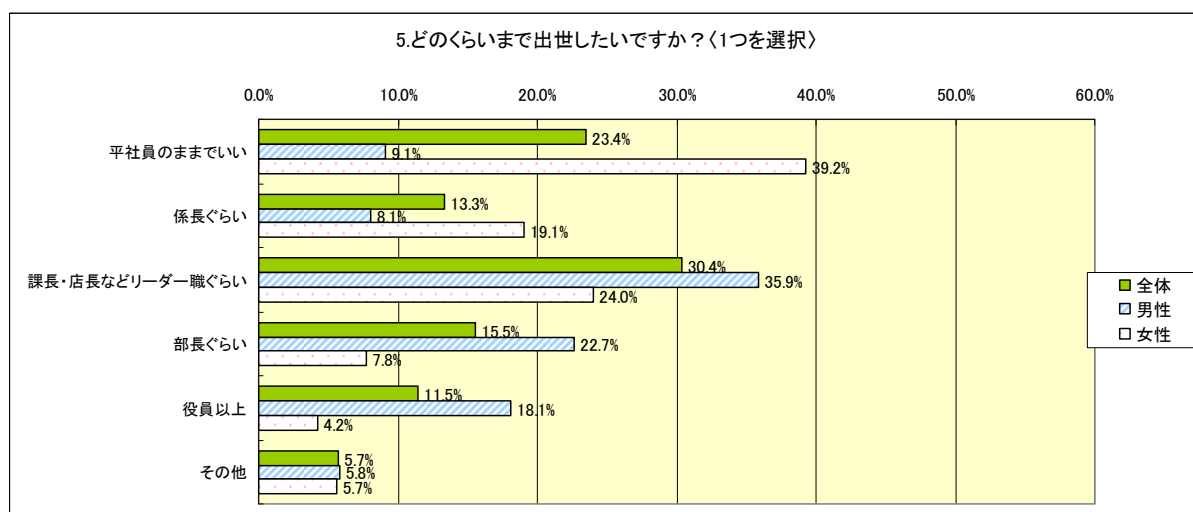


昨年度調査と比較すると、「定年まで働きたい」が減少する一方、「いずれは転職したい、してもよい」を中心に、転職や独立志向が増加している。

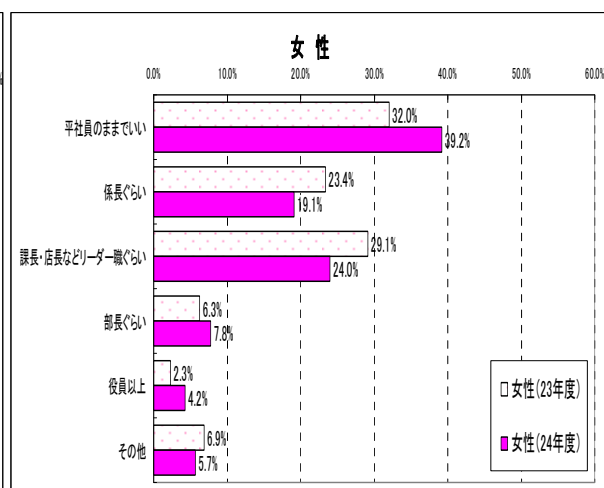
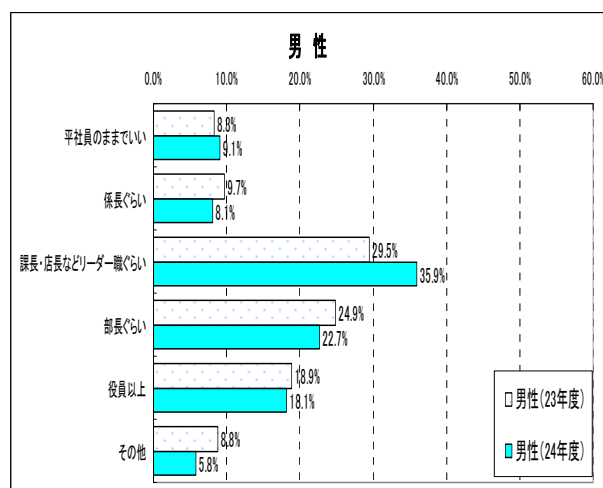
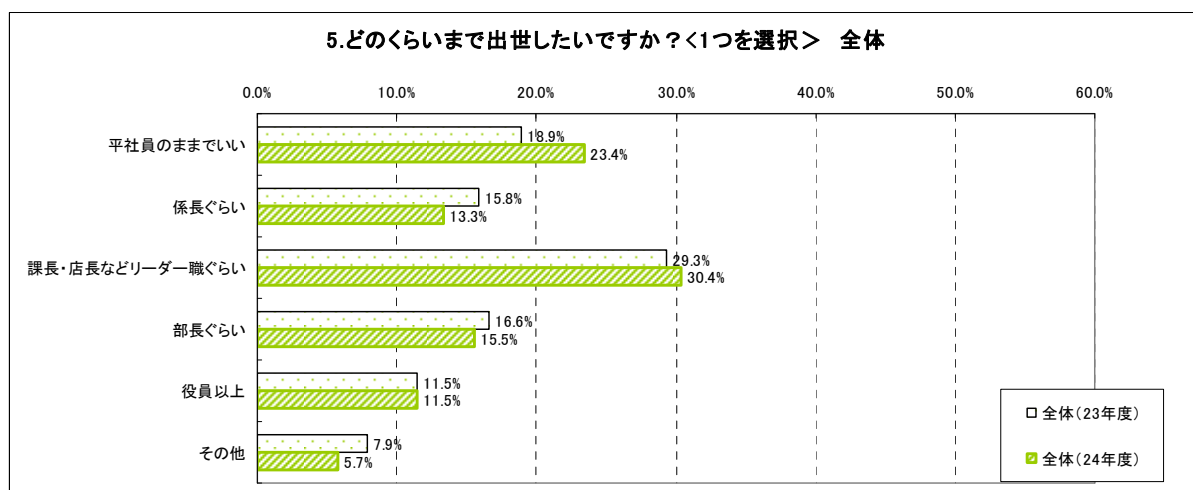


5. どのくらいまで出世したいか？

ここでも男女差をはっきりと表れた。より上席になるほど男性の回答が多く、課長・店長等のリーダー職以上を目指す回答が76.7%となった。女性は「平社員のままでいい」39.2%、次いで「課長・店長などリーダー職」24.0%となった。

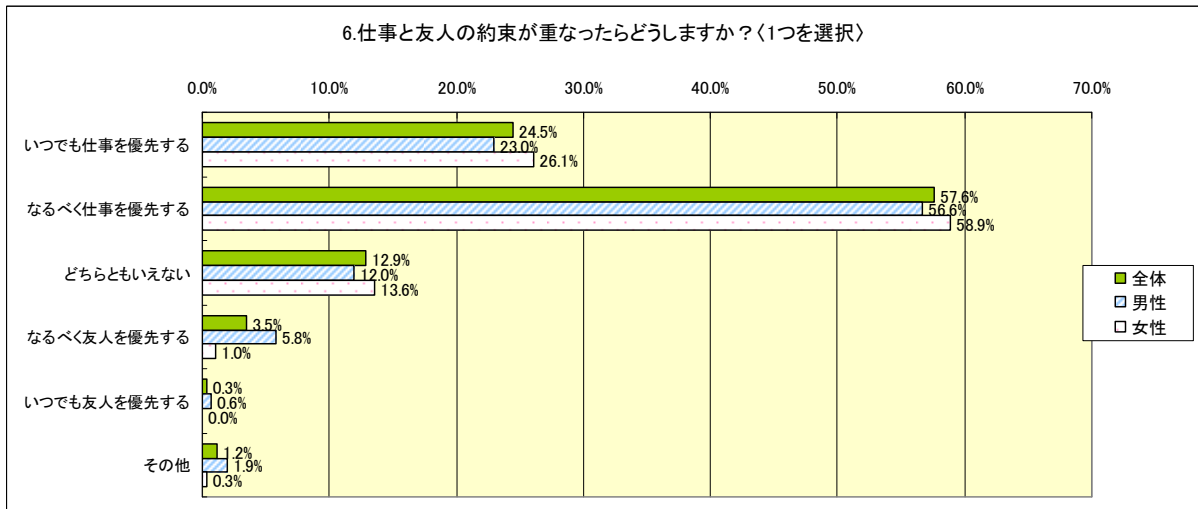


昨年度調査と比較すると、女性では「平社員のままでいい」が増加する一方、部長や役員等の上位職を目指す回答も増えている。

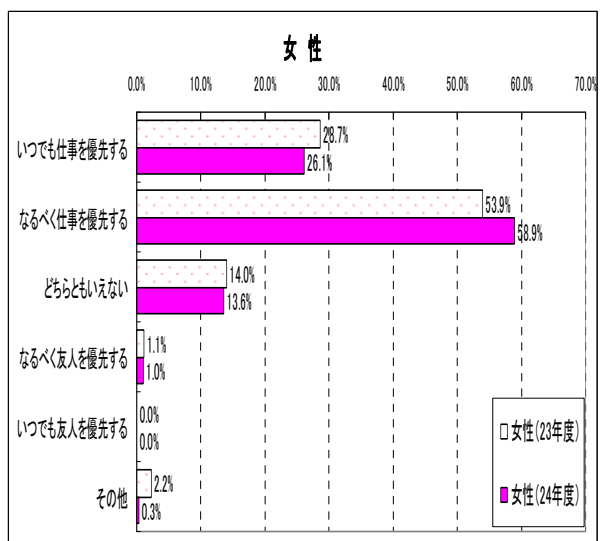
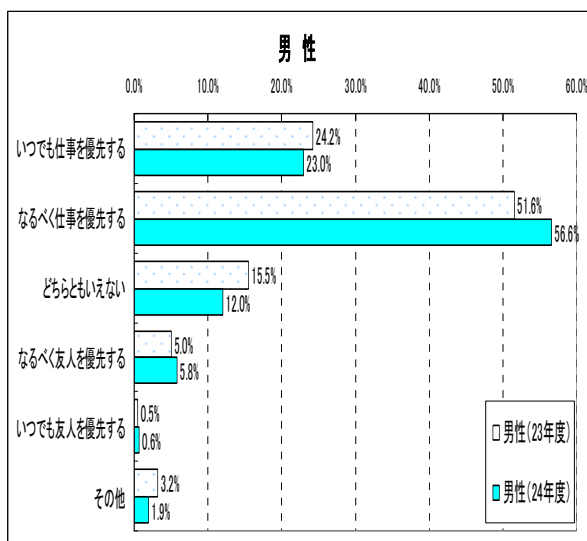
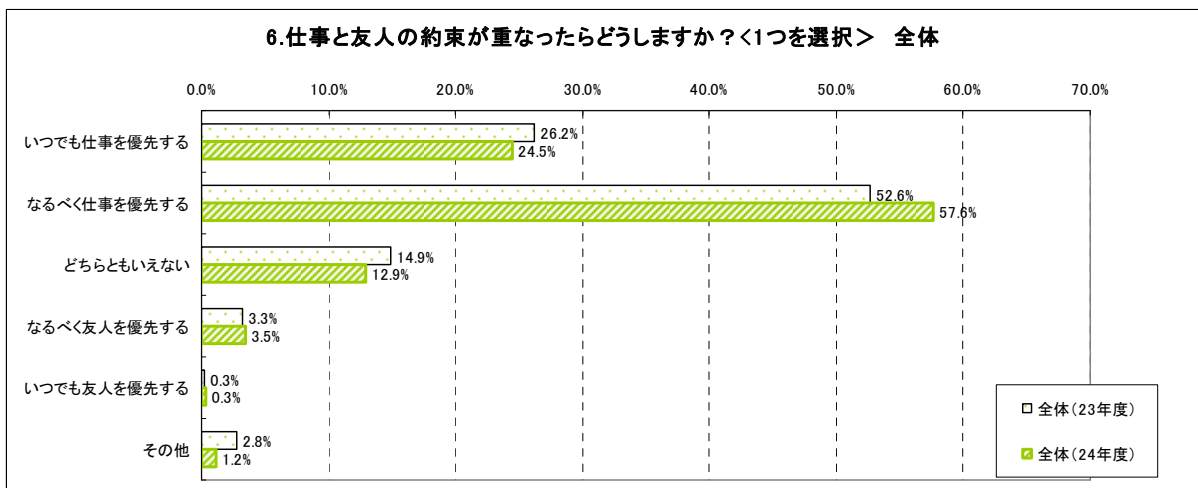


6. 仕事（残業など）と友人の約束（食事や飲み会など）が重なったらどうするか？

「なるべく仕事を優先する」が57.6%と最も多く、次いで「いつでも仕事を優先する」が24.5%となった。合計すると82.1%となり、友人の約束よりも「仕事を優先」派が多い。



昨年度調査と比較すると、男女問わず「なるべく仕事を優先する」が大きく増加した。



7. あなたが今、興味のあるもの、関心の高いものは何か？

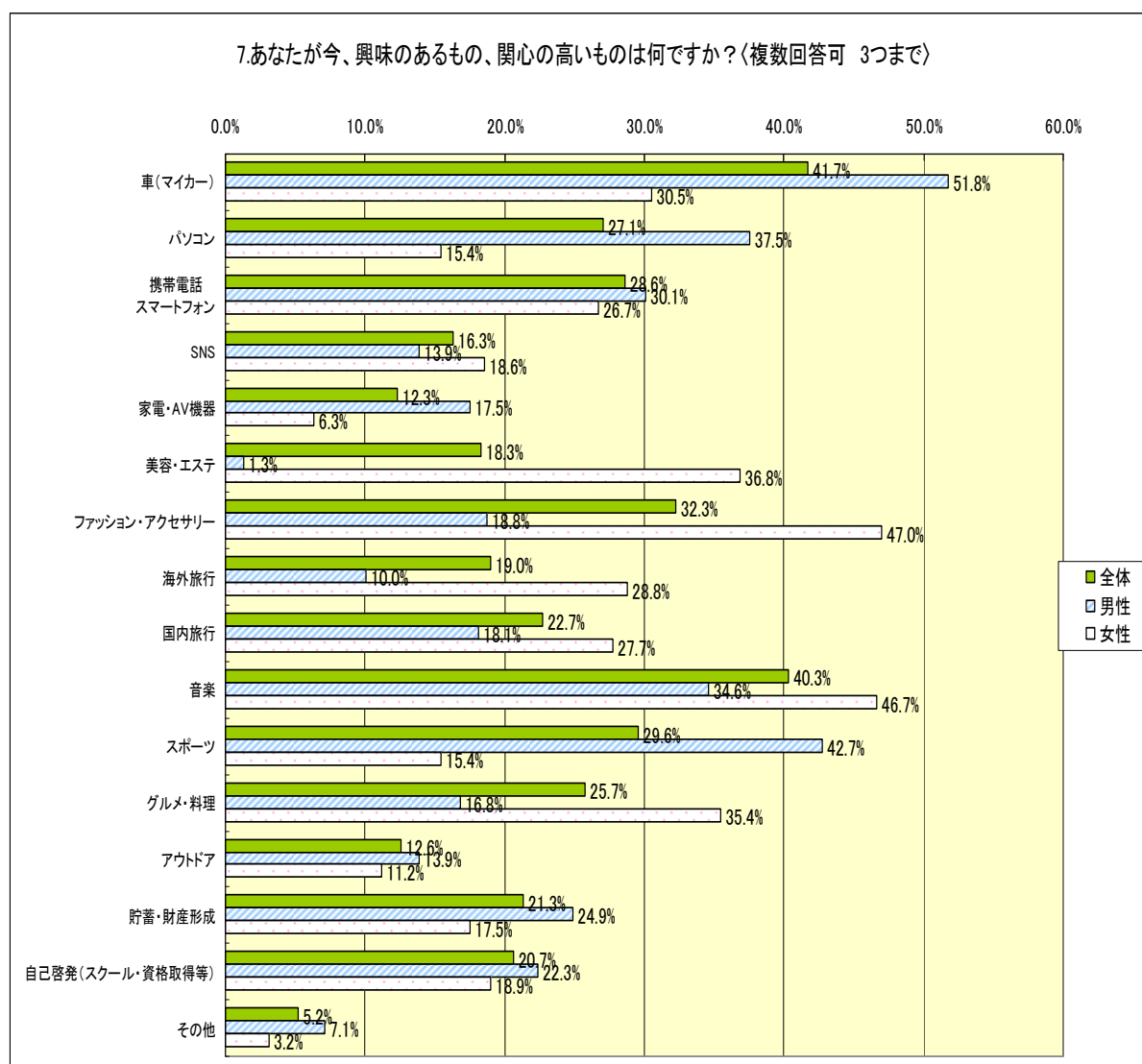
この項目では、男女の回答に大きな開きがみられた。

<男性>

①車（マイカー）	51.8%
②スポーツ	42.7%
③パソコン	37.5%
④音楽	34.6%
⑤携帯電話・スマートフォン	30.1%

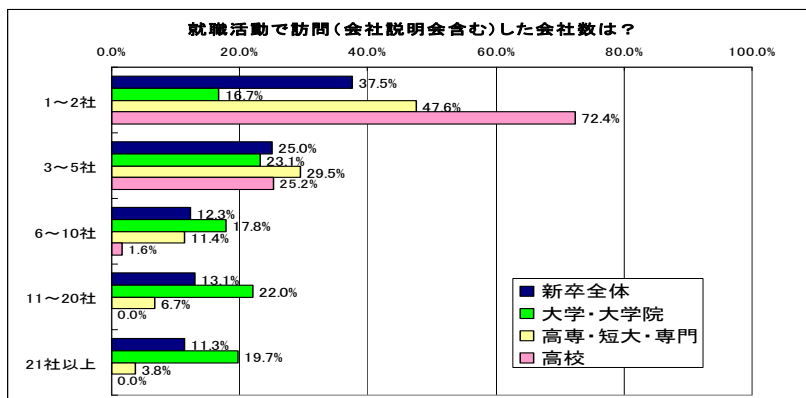
<女性>

①ファッション・アクセサリ	47.0%
②音楽	46.7%
③美容・エステ	36.8%
④グルメ・料理	35.4%
⑤車（マイカー）	30.5%

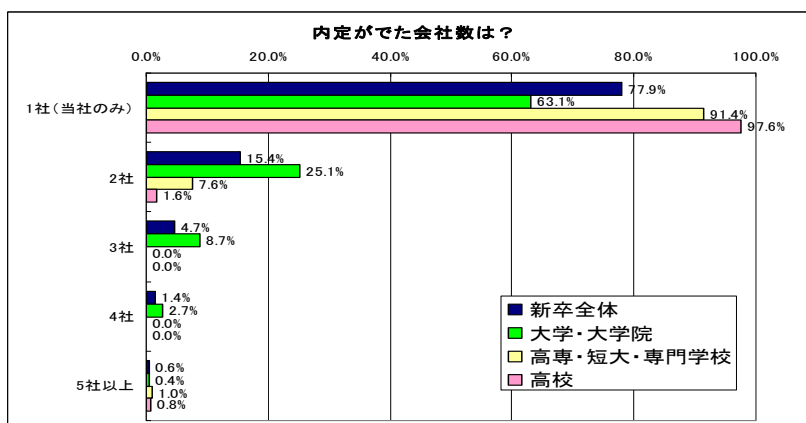


8. 新卒者の就職活動の状況について

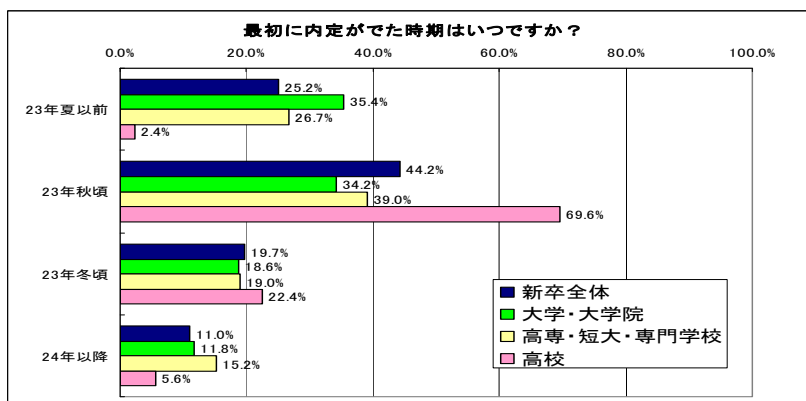
(1) 新卒者の訪問企業数（会社説明会を含む）は、「大学・大学院」では、「3～5社」が23.1%と最も多かったが、「11社～20社」22%、「21社以上」19.7%と、11社以上訪問した回答が4割以上もあった。「高校」では、「1社～2社」が圧倒的に多い。



(2) 内定企業数は、「高校」「高専・短大・専門学校」では「1社（当社のみ）」が圧倒的に多く、「大学・大学院」では「1社（当社のみ）」が63.1%、「2社」25.1%となり、厳しい就職戦線を反映した。



(3) 内定が最初にでた時期は、「高校」では「23年秋頃」が目立って多かった。「大学・大学院」「高専・短大・専門学校」では「23年冬頃」「24年以降」の回答も比較的多く、就職活動が長引いたことを裏付けた。



以上